

(修正案)

平成23年8月11日

村上市長 大滝 平正 様

(仮称) 荒川統合保育園建設検討委員会
委員長 松田 昭平

(仮称) 荒川統合保育園の実施設計に向けた提言について (答申)

平成23年6月30日付けで、当委員会に諮問のありました「(仮称) 荒川統合保育園の実施設計に向けた提言」について、保育園職員の意見も参考にしながら、慎重審議の結果、以下のとおり答申いたします。

記

1 「安全で安心できる保育園」

建築材には、子どもたちの健康に配慮した材料や、温かみのある地元産材を多く使用することと、災害や不審者侵入などへの対応を想定した安心・安全な保育園であること。

また、予定地に面する道路は交通量も多いことから、道路上に待機車がないよう通園バスや送迎車は園内一方通行とするなどの工夫を行うとともに、園内の車道と歩道を明確にし、安全面に配慮した敷地(用地)利用であること。

2 「子どもたちの生きる力を育む保育園」

子どもたちが楽しく遊び、いきいきと生活する中、床暖房や便座の暖房等快適さだけでなく、たくましく生きる力を育む保育環境に考慮した保育園とすること。

また、現在、荒川地区の各保育園が健康な体づくりのために取り組んでいるはだし保育が行えるような屋内外施設にすること。

3 「大規模園でも落ち着いて過ごせる機能的な保育園」

200人定員の子どもたちが安定して落ち着いた生活を過ごせるよう、3歳未満児保育、3歳以上児保育、子育て支援センター等の保育内容に合わせたゾーン分けや一時保育、延長保育、休日保育、障がい児保育等の特別保育を実施する上で、効率よく利用目的に柔軟に対応できる機能性を持った保育園であること。

4 「新エネルギーを取り入れる等環境に配慮した保育園」

太陽光発電など新エネルギーの利用や停電等の非常時に対応した安全で低コストの設備を備えること。

既存の樹木等を取り入れた自然環境に優しく、また、毎日の保育に影響のある採光等の機能性、通気性等の快適性を確保すること。

5 「地域との交流に配慮した保育園」

地域の宝である子どもたちが、高齢者など地域住民とふれあう環境づくりに配慮した保育園であり、地域の子育て支援の拠点施設として荒川地区のシンボリックな存在となるような保育園であること。